

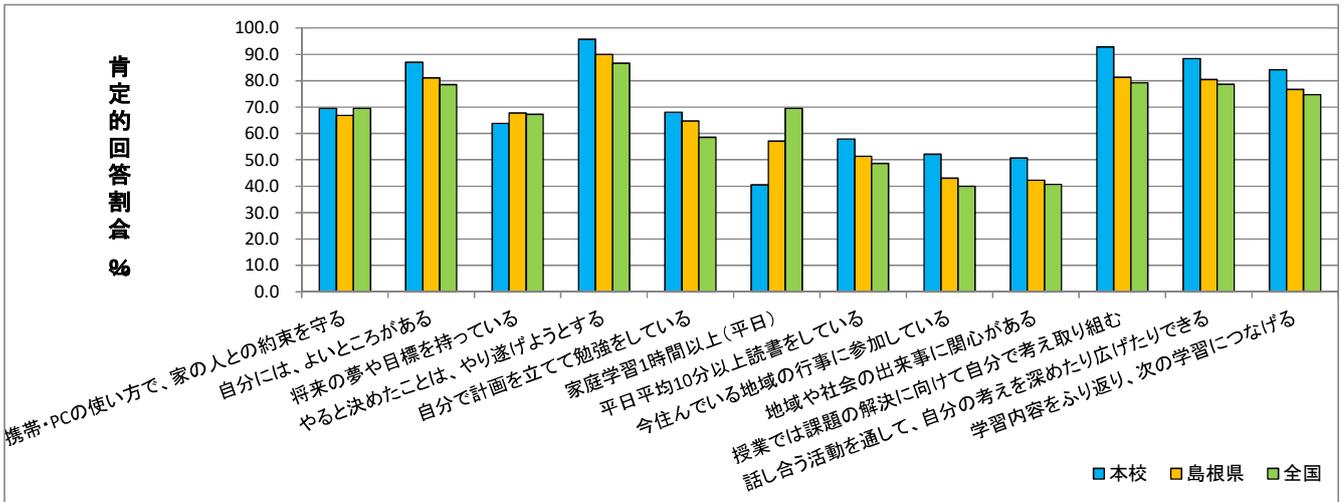
(1)学力調査結果から見られた傾向

	成果と課題(○:成果, ●:課題)	対策(・)
国語	○正答率は全国・県平均並み(やや高い)であった。 ○知識・技能が高く、特に行書についての理解ができている。 ○無解答率が低かった。 ●集団に散らばりは少ないが、やや下の層が多いためどのように底上げをするか考えたい。 ●記述式問題の正答率が低いため、自分の考えを書く力を伸ばしていきたい。	・生徒が自分の考えを書く場面を授業に取り入れていく。 ・自分の考えを書くために必要な語彙や言葉の言い回しも、資料として準備をし、適切な表現ができるよう指導していく。 ・教科書以外にも、他者の考えに触れる機会をつくり、生徒自身の視野を広げられる場を設ける。
数学	○正答率は県平均並み(やや全国より低い)であった。 ○特に関数領域の正解率が高い。 ●上位層が少ない(全国平均と比較すると、山がずれている)。中位層にどのようにして力を付けさせるか。 ●集団の散らばりが大きいため、下位層に重視し過ぎない授業となる工夫をどうするかが課題。	・42の素因数分解に見られるように、やり方を伝えると思いついてできるのに、言葉の意味、定義を忘れていくことが多いので、繰り返しそれが何を意味しているのかを、確認していく。 ・予想した事柄を表現する、という問題の正答率が低いため、折に触れ、自分の考えや解き方を表現する場を設ける。
理科	○知識・技能、思考・判断・表現ともに高い。特に「粒子」領域に正答率が高かった。 ○無解答率が低かった。 ●科学的に探究する力を付けさせたい。 ●集団の散らばりは少ないが、上位層を伸ばしていきたい。	・様々な意見をもとに、科学的に適した方法は何かを考える場面を設定する。 ・実験結果から見出される規則性や法則について考察する時間を十分に取る。 ・問題演習では基礎的なものだけでなく、思考力が必要な必要問題も取り入れる。

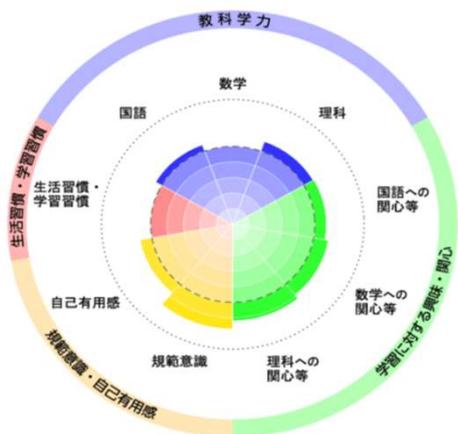
(2)生徒質問紙調査から見られた傾向

	成果と課題(○:成果, ●:課題)	対策(・)
質問紙	○学校を楽しんでいる、信頼できる先生がいるといった項目に関して、肯定的に答えている生徒の割合が高い。 ○タブレット、PCを使っていると答えた生徒の割合が非常に高い。 ●平日、休日を問わず、2時間以上家庭学習をした、という生徒の割合が全国・県平均ともに大きく下回っている。	・学校生活を楽しく過ごし、教員に対して好意的に思っている生徒が多い現状を生かし、より生徒たちが向上心を持って日々過ごせるよう指導する。 ・家庭学習の時間が増えるよう、教科・学年が連携し取り組む。また、HP、文書等を通じて保護者の方にも現状をお知らせし、協力をお願いする。

(3)生徒質問紙調査結果より(学力との相関が指摘されているものや、教育委員会として注目しているものを挙げています。)



(4)学力・学習状況調査結果チャート(破線は全国平均)



(5)その他、今後特に力を入れて取り組むこと

・各教科で反復的な課題や発展的な課題など、授業や宿題として取り組ませることによって基礎的な学力の定着を図る。
 ・すべての領域において、平均正答率が県の平均を上回っている理科の授業研究を行うことによって、教科に共通する指導法や支援についての研修を行う。

【受検者数】

69 名

※欠席等により調査によって受検者数が異なる場合は、最少の受検者数をもって表示。